

21春闘「第1回交渉」開催！ コロナ禍の働きがい向上をめざして

3月1日、2021春季生活闘争の申入れ 申1号「賃金引き上げの要求について」（2月10日提出）の第1回団体交渉を開催した。第1回目の交渉では、組合側から要求の趣旨説明となり、要求の額に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う先行きの不透明さをふまえ具体的な提示は控えたものの、定期昇給の実施およびグループ会社社員を含めた完全雇用の実施を要求するものであるとし、併せて、月例賃金2%相当の諸労働条件改善要求「申2号」と平行した議論を求めるものとした。

組合の主張（要点）

JR東日本の経営状況

- ・令和2年度第三四半期決算（単体）は、輸送需要が大きく落ち込んだ結果、営業収益は対前年55.4%、営業利益は2,878億円の大幅な赤字を計上。
- ・通期の業績見通しを下方修正し、親会社に帰属する純利益（連結）を4,500億円の赤字と想定。

「変革2027」達成にむけた取り組み

- ・「変革2027」で5～10年先に想定していた経営環境の変化が課題として直面。
- ・テレワークの定着や出張からテレビ会議へとといった、決して一過性では済まされない構造問題に直面。
- ・このままでは当社が衰退するという危機感を持ち、今こそ社員一人一人が変革意識を持ち取り組むべき。

JREユニオンの立場と今春闘の要求

- ・昨年発出した「会社と共に！」のなかで、困難な状況を労使が一体となり乗り越える為に、今何を為すべきか、今後の会社の維持、発展に対し責任ある立場を明確化。
- ・今春闘は非常に厳しい。将来的にも大きな影響を及ぼすとも考えている。社員の中には雇用に対する不安もある。社員の離職率も上がっているように感じる。
- ・今春闘は、定期昇給の実施とグループ会社社員を含めた完全雇用を求めるものである。

ポストコロナ社会を見据え変革のスピードアップを推し進めるため、
全社員の涙ぐましい努力に見合った適正な労働分配を！